



今週の T2 経済レポート

2021 年 4 月 9 日号

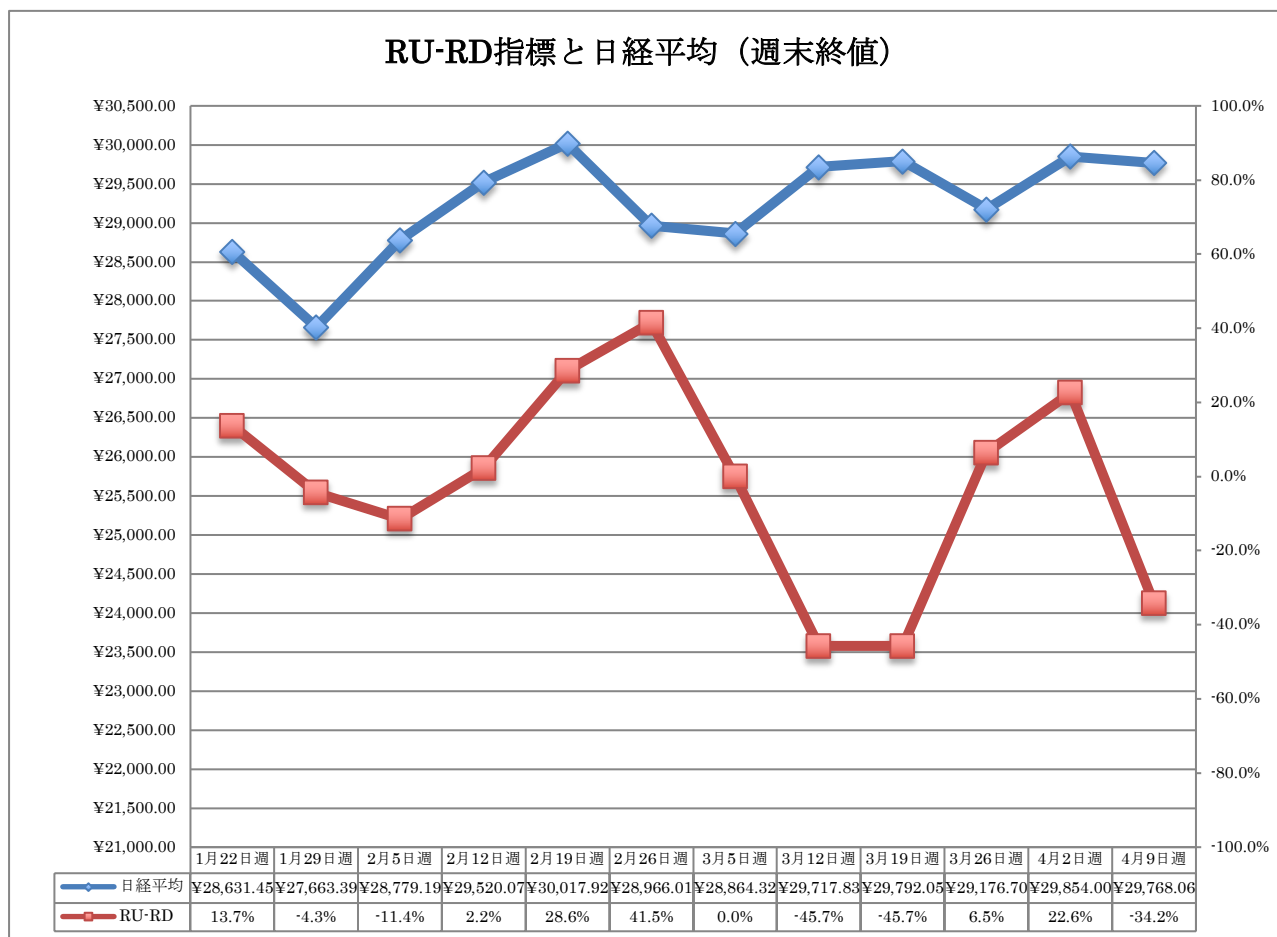
■■■ 市場ウオッチ ■■■

<先週のマーケットを振り返る>

先週、「今週は急落調整を警戒する週となりそうです。今週(4/5~4/9)の相場を占う『RU-RD 指標』の3月26日週が-34.2%と3週間振りにマイナス圏に陥っていることから急落調整が懸念されます。9日にミニSQを控えていることで投機筋の外国人がどのように動くのかが注目されます。また、来週(4/12~4/16)の相場を占う4月2日週が-5.6%と2週連続でマイナス圏に陥っていることから軟調相場が継続することが予想されます。2週連続マイナス圏に陥った3月1日週、『2週連続マイナス圏は1月11日週~18日週以来、約2ヶ月振りですが、2週連続の下限ゾーンは15年8月17日週~24日週以来、約5年半振り希な現象。当時は12年末から始まったアベノミクス相場が一旦、終了したタイミングで、16年6月の英ブレクジットまで下落率-29%の下落スタートとなりました。また、今週は日経平均のT2レーティングが昨年10月30日週以来、約4ヶ月振りに「売り転換」となりましたが、この10月30日週は今年2月に30年半振りの30714円高値まで上昇する起点となった時期にあたり、大きな転換点を迎えたことを示唆しているように思われます。』と指摘したように、相場が天井圏に入っていると投資スタンスは忘れないことです。一方、『日経平均とのほぼ一致指標である「買い(レーティング1と2)」「売り(レーティング3と4)」銘柄比率』が2月12日週+62.9%→2月19日週+68.6%→2月26日週+50.0%→3月5日週+31.4%→3月12日週+30.0%→3月19日週+47.1%→3月26日週+38.6%→4月2日週+28.6%と34週連続プラス圏継続しています。以前から、『いずれ+40%超の上限ゾーンを継続して突破する近未来が待っています。』と指摘してきましたが、「上限ゾーン」を境に行ったり来たりするのは典型的な天井圏形成のパターンです。それを繰り返しながら相場は「2番天井」か、「トリプルトップ」のような天井圏形成のかたちになる可能性が強まったかたちです。

今週は、経済指標では、国内は、6日に2月家計調査、7日に2月鉱工業生産、8日に3月景気ウォッチャー調査、一方、海外では、5日に米3月ISM非製造業指数、米2月製造業受注、6日に米FOMC議事録(3月開催分)、などが予定されています。5日発表の米3月ISM非製造業景況指

数は 58.2 と 2 月実績の 55.3 を上回る見通しで、新型コロナウイルスの打撃からの回復傾向が顕著になるとみられています。また、7 日に 3 月 16-17 日開催分の FOMC 会合の議事要旨が公表されますが、上昇基調の長期金利や資産買入れの段階的縮小(テーパリング)に関しどのような意見があったのかが注目されます。」とコメントしました。



3月19日週	3月26日週	4月2日週	4月9日週
¥29,792.05	¥29,176.70	¥29,854.00	¥29,768.06
-45.7%	6.5%	22.6%	-34.2%

先週の日経平均は、高値 30208 円(4月6日)・安値 29516 円(4月8日)と推移、前の週と異なり、前半高・後半安の弱いかたち。先週は、前の週末に発表された米雇用統計で非農業部門雇用者数が市場予想を大きく上回ったことや ISM 非製造業景況指数が過去最高を記録したことで米国経済の先行き期待が強まり上値目標値を上回りましたが、週末9日のオプション4月物の特別清算指数(SQ)算出に絡んだ売り崩しや今後本格化してくる決算を前に様子見ムードが台頭、週間ベースで-86 円安と前の週の大高から一転、小幅反落して終了しています(先週予告していた上値メド 29478 円~30067 円(+2%かい離)//下値メド 28496 円~27926 円(-2%かい離))。『大台替えと時

間の物理学的法則』では、小刻みの大台替えて、4月5日に30000円大台替えてカウントダウンの上昇局面入りに4日間、従って、9日までに30500円大台替えてカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが実現せず時間切れ。30500円大台替えて仕切り直し、逆に、29000円大台割れで下落スタートとなります。中期の大台替えては、4月5日に逆に、30000円大台替えて仕切り直しが入りました。31000円大台替えてカウントダウンの上昇局面、逆に、29000円大台割れで下落スタートとなります。また長期の方向を示す月ベースの大台替えての法則では、4月に30000円大台替えて仕切り直しが入りました。31000円大台替えてカウントダウンの上昇局面、逆に、29000円大台割れで下落スタートとなります。これで短期→、中期↑、長期↑となり、中長期は強含みながら短期の方向感がなくなり、目先、乱高下しやすいかたちに変化しました。

日経平均を左右するNYダウは、高値33810ドル(4月9日)・安値33222ドル(4月5日)と推移、実質3週連続で前半安・後半高の強いかたち。先週は、米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨(3月16-17日開催分)を受けて政策金利が2023年末まで現行水準を維持するとの見方が再び広がり量的緩和策の早期縮小の思惑が後退、新型コロナウイルスのワクチン接種が拡大して米国経済の早期正常化への期待が持続し上値目標値を達成、週間ベースでは+647ドル高と3週連続高となり史上最高値を更新して終了しています(先週予告していた上値メド33390ドル~34057ドル(+2%かい離)//下値メド32506ドル~31855ドル(-2%かい離))。「大台替えての法則」では、短期の大台替えて、4月5日に33500ドル大台替えて仕切り直しが入りました。34000ドル大台替えてカウントダウンの上昇局面、逆に、33000ドル大台割れで下落スタートとなります。中期の方向を示す月ベースでは、3月26日までに34000ドル大台替えてカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが実現せず時間切れ。35000ドル大台替えて仕切り直し、逆に、32000ドル大台割れで下落スタートとなります。長期の方向を示す月ベースでは、3月に32000ドル大台替えて仕切り直しが入り、同月33000ドル大台替えてカウントダウンの上昇局面入りに0ヶ月、従って、今月中に34000ドル大台替えてカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが実現せず時間切れ。34000ドル大台替えて仕切り直し、逆に、31000ドル大台割れで下落スタートとなります。これで短期↑、中期→、長期→、となり、短期強含みとなりましたが、中長期は方向感がないため強含みながらも乱高下しやすいかたちに変化しました。

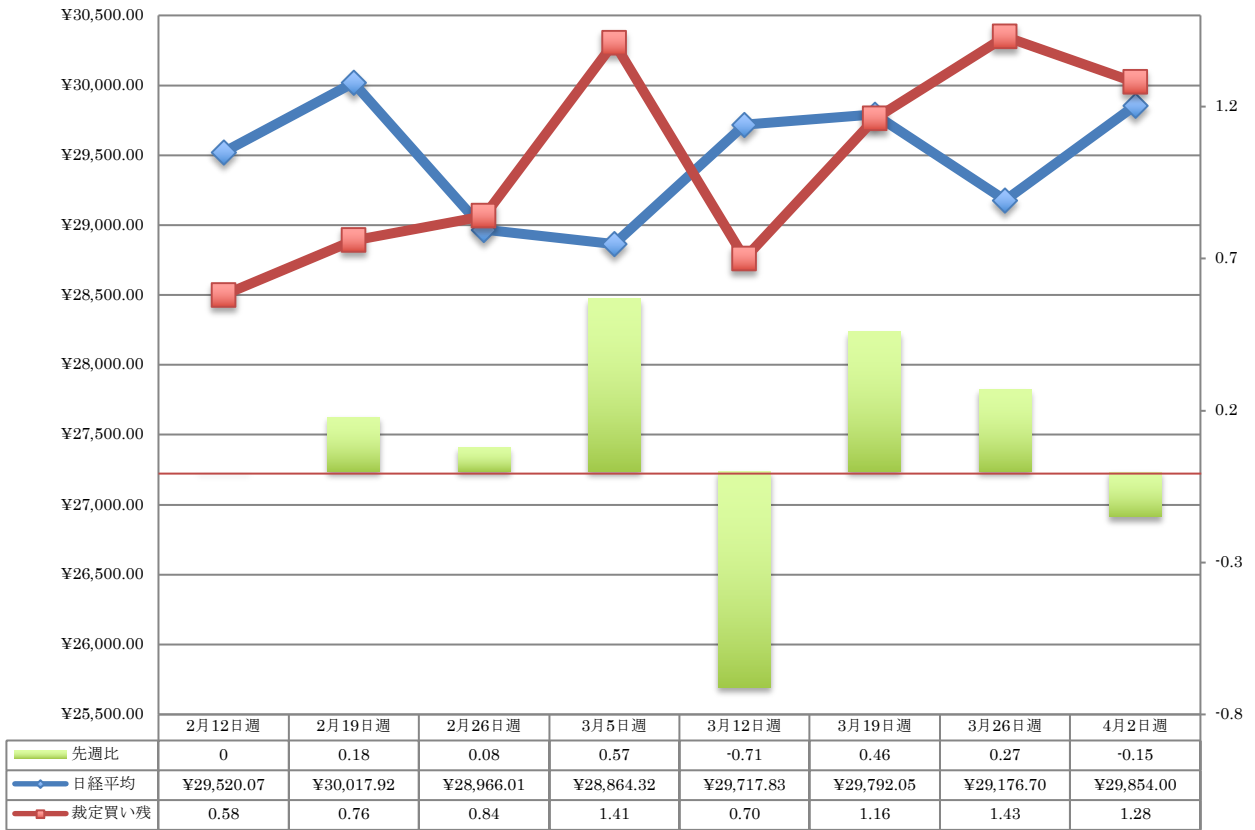
一方、為替は、ドル・円が110.74円~108.98円(先週予告していた上値メド110.80円~111.90円(+1%かい離)//下値メド109.67円~108.57円(-1%かい離))と推移、下値目標値を達成し、前の週と異なり円高・ドル安、ドル・ユーロは、1.1927~1.1736(先週予告していた上値メド1.1785~1.1902(+1%かい離)//下値メド1.1636~1.1519(-1%かい離))と推移し、上値目標値を超え3週間ぶりにドル安・ユーロ高。また、ユーロ円は、130.67円~129.52円(先週予告していた上値メド129.88円~131.17円(+1%かい離)//下値メド128.36円~127.07円(-1%かい離))と推移し、上値目標値を達成し、2週連続で円安・ユーロ高。前の週のドル>ユーロ>円から円>ユーロ>ドル

に変化し、ドル安修正が 3 週間ぶりに起きています。オランダ中央銀行総裁がパンデミック緊急購入プログラム(PEPP)を7-9月期から段階的に縮小する可能性を示唆する一方、米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨(3月16-17日開催分)を受けて早期の緩和策縮小観測が後退したことで3週間ぶりにユーロ買い・米ドル売りの修正が起きたかたちです。

<裁定買い残・裁定売り残>

3週間振りに減少。3月1日週は15年11月16日週以来の5000億円超の増加、次週3月8日週は16年1月4日週以来の7000億円超の減少、更に次の週3月15日週は4600億円増、次週3月22日週は約2700億円増、そして先週発表の3月29日週が1530億円減少と、ここ5週連続で1500億円～約7000億円の巨額の増減を繰り返す異常な現象が続いています。これだけの増減を繰り返しても相場が乱高下しないのは「ブロック取引」が行われているためです。つまり、ファンドか、ヘッジファンドの精算に伴う処理が行われている可能性があります。一方、「裁定売り残」は、前の週比-641億円の1兆490億円と2週連続で減少。3月8日週の1000億円の減少は2月8日週以来、また残高の1兆円台はコロナショック直前の昨年2月24日週以来で、日経平均が30年半振りに30000円大台を回復した牽引役の一つとなっています。「裁定買い残」の推移を振り返ると、18年9月14日週～28日週の3週間合計で+1.12兆円の急増となり、18年5月21日週以来、約4ヶ月振りに2兆5000円億円台を回復して18年10月2日の日経平均の年初来高値更新を演出。その後、18年10月1日週～10月26日週の4週連続減少、4週間合計で約1.5兆円急減、この4週間のうち1週間は5000億円と18年2月5日週以来の急減で、やはり18年10月からの暴落は「VIX ショック」と同様、投機筋の外国人の売り仕掛けだったことを証明しています。

裁定買い残と先週比



3月12日週	3月19日週	3月26日週	4月2日週
¥29,717.83	¥29,792.05	¥29,176.70	¥29,854.00
0.7	1.16	1.43	1.28
-0.71	0.46	0.27	-0.15

単位:兆円

裁定売り残と先週比



3月12日週	3月19日週	3月26日週	4月2日週
¥29,717.83	¥29,792.05	¥29,176.70	¥29,854.00
1.04	1.14	1.11	1.05
-0.16	0.10	-0.03	-0.06

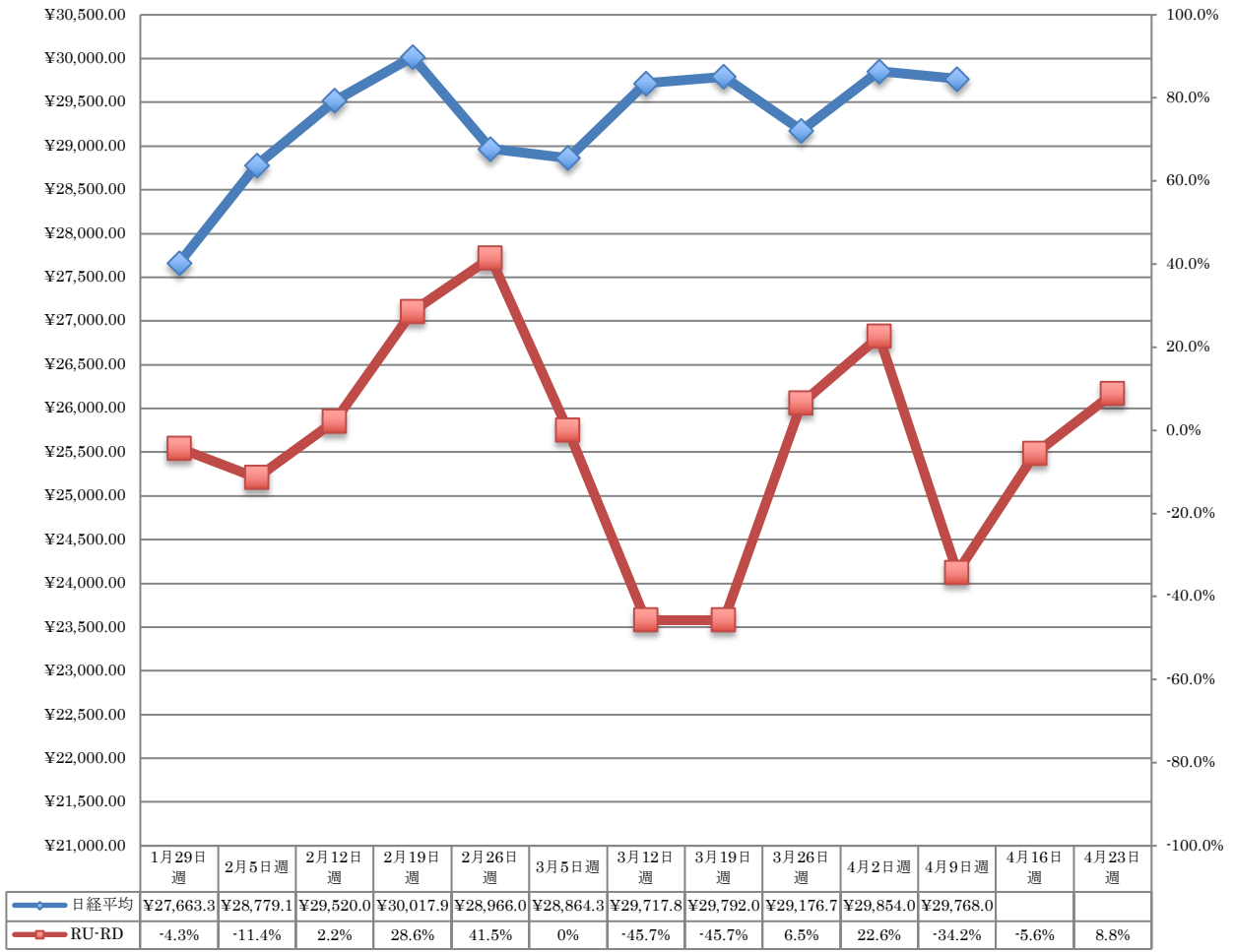
単位:兆円

<今週のマーケットの見通し>

今週は軟調相場が継続する可能性がある週となりそうです。今週(4/12~4/16)の相場を占う『RU-RD 指標』の4月2日週が-5.6%と2週連続でマイナス圏に陥っていることから軟調相場が継続することが予想されます。ただ、来週(4/19~4/23)の相場を占う4月9日週が+8.8%と3週間ぶりにプラス圏に浮上したことから急反発が期待されます。2週連続マイナス圏に陥った3月1日週、『2週連続マイナス圏は1月11日週~18日週以来、約2ヶ月振りですが、2週連続の下限ゾーンは15年8月17日週~24日週以来、約5年半振りです希な現象。当時は12年末から始まったアベノミクス相場が一旦、終了したタイミングで、16年6月の英ブレクジットまで下落率-29%の下落スタートとなりました。また、今週は日経平均のT2レーティングが昨年10月30日週以来、約4ヶ月振りに「売り転換」となりましたが、この10月30日週は今年2月に30年半振りの30714円高値まで上昇する起点となった時期にあたり、大きな転換点を迎えたことを示唆しているように思われます。』と指摘しましたが、4月9日週、T2レーティングが1か月振りに「買い転換」しました。相場が天井圏に入っていることからここから大きく上昇するというよりは「2番天井」のような動きで、再度、T2レーティングが「売り転換」するときには要注意となりそうです。一方、『日経平均とのほぼ一致指標である「買い(レーティング1と2)」「売り(レーティング3と4)」銘柄比率』が2月12日週+62.9%→2月19日週+68.6%→2月26日週+50.0%→3月5日週+31.4%→3月12日週+30.0%→3月19日週+47.1%→3月26日週+38.6%→4月2日週+28.6%→4月9日週+30.0%と35週連続プラス圏継続しています。以前から、『いずれ+40%超の上限ゾーンを継続して突破する近未来が待っています。』と指摘してきましたが、「上限ゾーン」を境に行ったり来たりするのは典型的な天井圏形成のパターンです。それを繰り返しながら相場は「2番天井」か、「トリプルトップ」のような天井圏形成のかたちになる可能性が強まったかたちです。

今週は、経済指標では、国内は、12日に3月工作機械受注、14日に2月コア機械受注、一方、海外では、13日に米3月消費者物価コア指数、中国3月貿易収支、14日に2月ユーロ圏鉱工業生産指数、米ページブック(地区連銀経済報告)、15日に米3月小売売上高、米3月鉱工業生産、米4月ニューヨーク連銀製造業景気指数、16日に中国1-3月期GDP、中国3月工業生産、中国3月小売売上高などが予定されています。13日発表の米3月消費者物価コア指数(CPI)は、前年比+1.6%と、2月実績の+1.3%を上回る見通し。また、15日発表の3月小売売上高は前月比+5.0%と、2月の同-3.0%からの反動により大幅改善が見込まれています。

RU-RD指標と日経平均（週末終値）



4月2日週	4月9日週	4月16日週	4月23日週
¥29,854.00	¥29,768.06		
22.60%	-34.20%	-5.60%	8.80%

■■■ 今週の各指標の上値・下値メド ■■■

<日経平均>

上値メド 30634 円～31246 円 (+2%かい離)

下値メド 29692 円～29098 円 (-2%かい離)

<NY ダウ>

上値メド 34130 ドル～34812 ドル (+2%かい離)

下値メド 33419 ドル～32750 ドル (-2%かい離)

<ドル円>

上値メド 111.15 円～112.26 円 (+1%かい離)

下値メド 109.62 円～108.52 円 (-1%かい離)

<ドルユーロ>

上値メド 1.1849～1.1967 (+1%かい離)

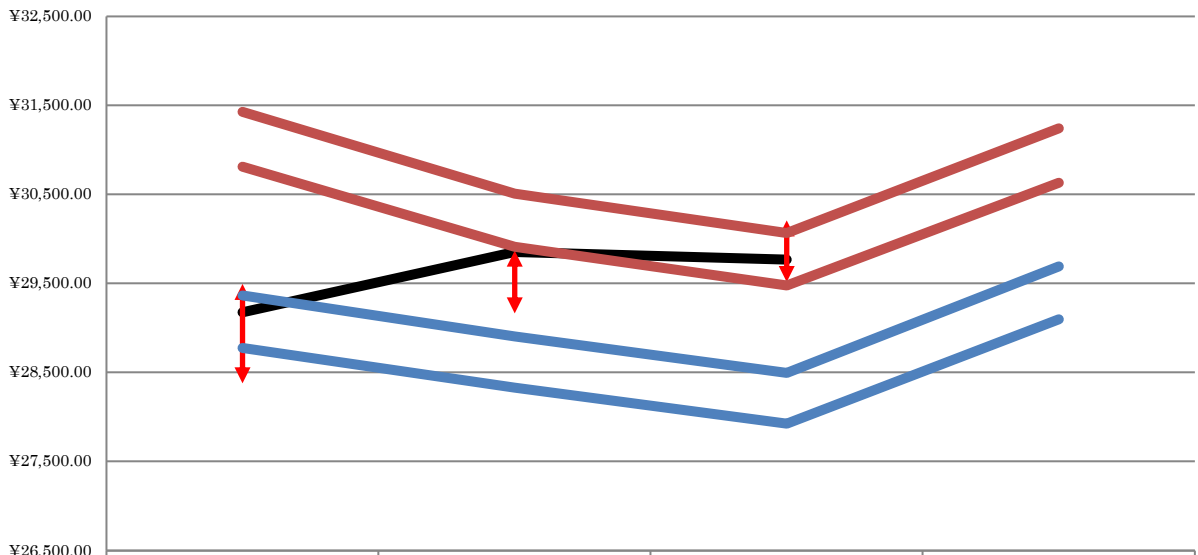
下値メド 1.1711～1.1593 (-1%かい離)

<ユーロ円>

上値メド 131.13 円～132.44 円 (+1%かい離)

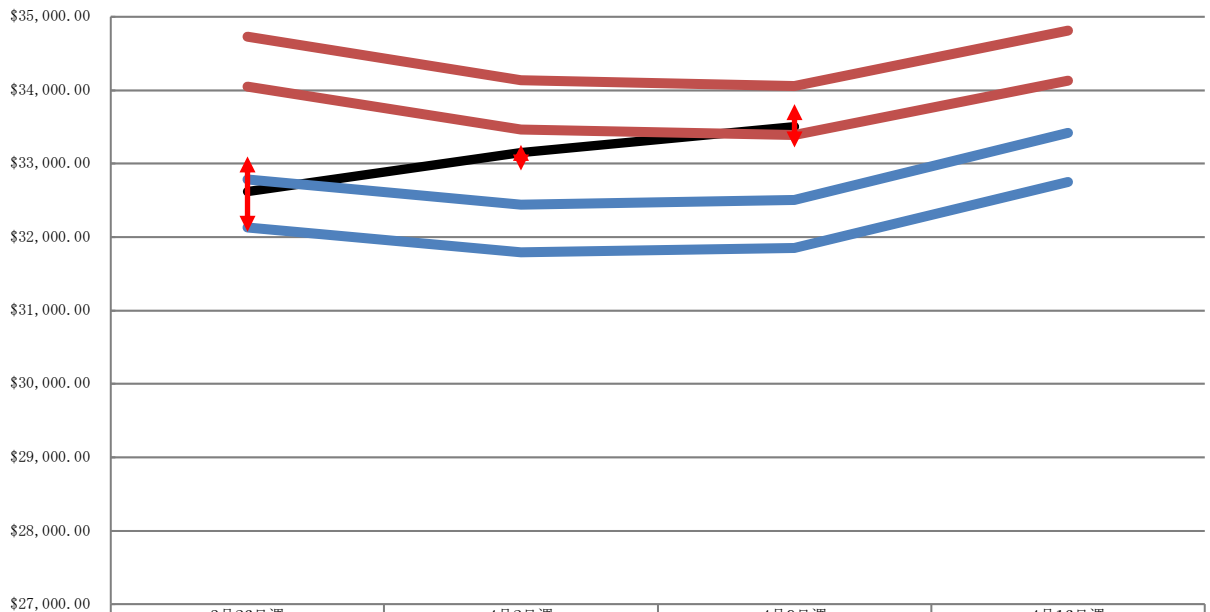
下値メド 129.53 円～128.23 円 (-1%かい離)

日経平均



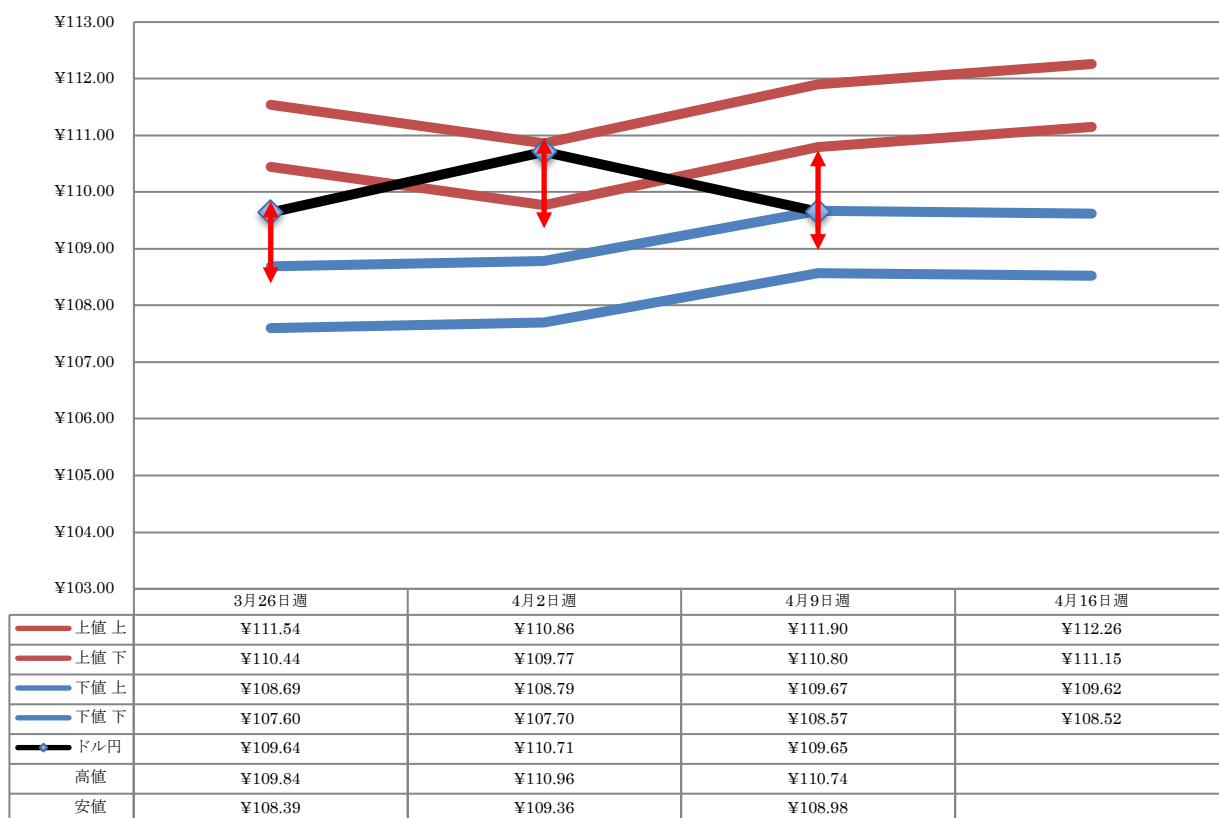
	3月26日週	4月2日週	4月9日週	4月16日週
— 日経平均	¥29,176.70	¥29,854.00	¥29,768.06	
— 高値	¥29,496.83	¥29,869.67	¥30,208.89	
— 安値	¥28,379.06	¥29,165.52	¥29,516.42	
— 上値 上	¥31,428	¥30,509	¥30,067	¥31,246
— 上値 下	¥30,812	¥29,911	¥29,478	¥30,634
— 下値 上	¥29,364	¥28,909	¥28,496	¥29,692
— 下値 下	¥28,776	¥28,330	¥27,926	¥29,098

NYダウ

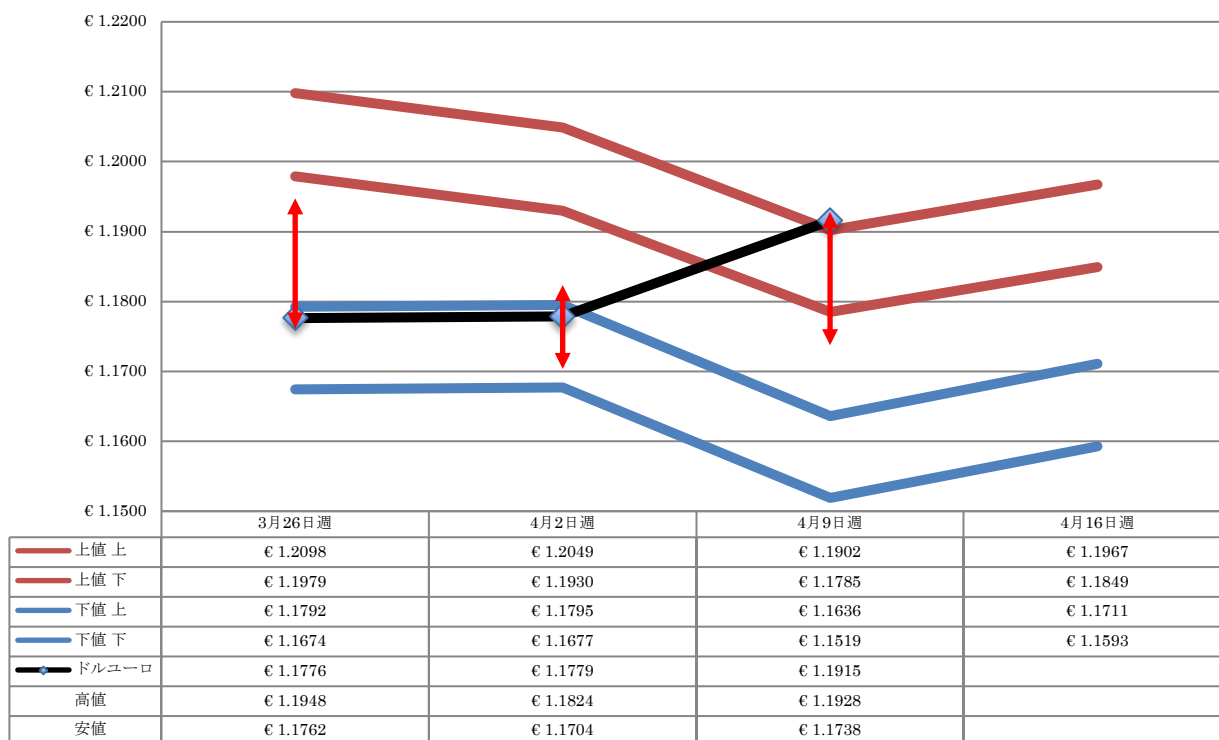


	3月26日週	4月2日週	4月9日週	4月16日週
— NYダウ	\$32,619.48	\$33,153.21	\$33,503.57	
— 上値 上	\$34,732	\$34,134	\$34,057	\$34,812
— 上値 下	\$34,051	\$33,465	\$33,390	\$34,130
— 下値 上	\$32,783	\$32,441	\$32,506	\$33,419
— 下値 下	\$32,127	\$31,792	\$31,855	\$32,750
— 高値	\$33,098.83	\$33,259.00	\$33,810.87	
— 安値	\$32,071.41	\$32,905.13	\$33,222.38	

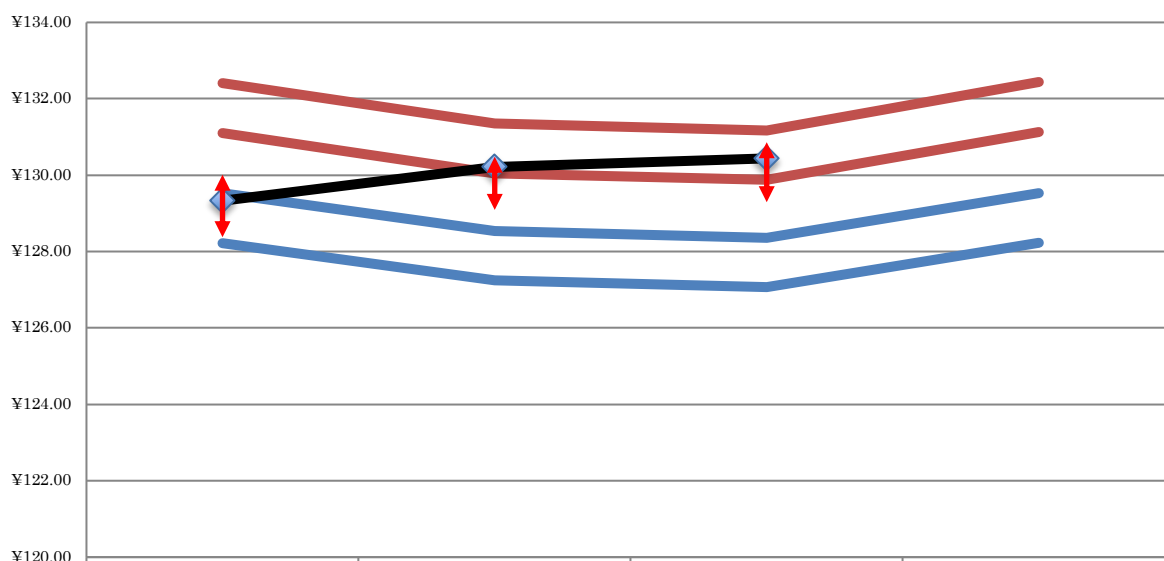
ドル円



ドルユーロ



ユーロ円

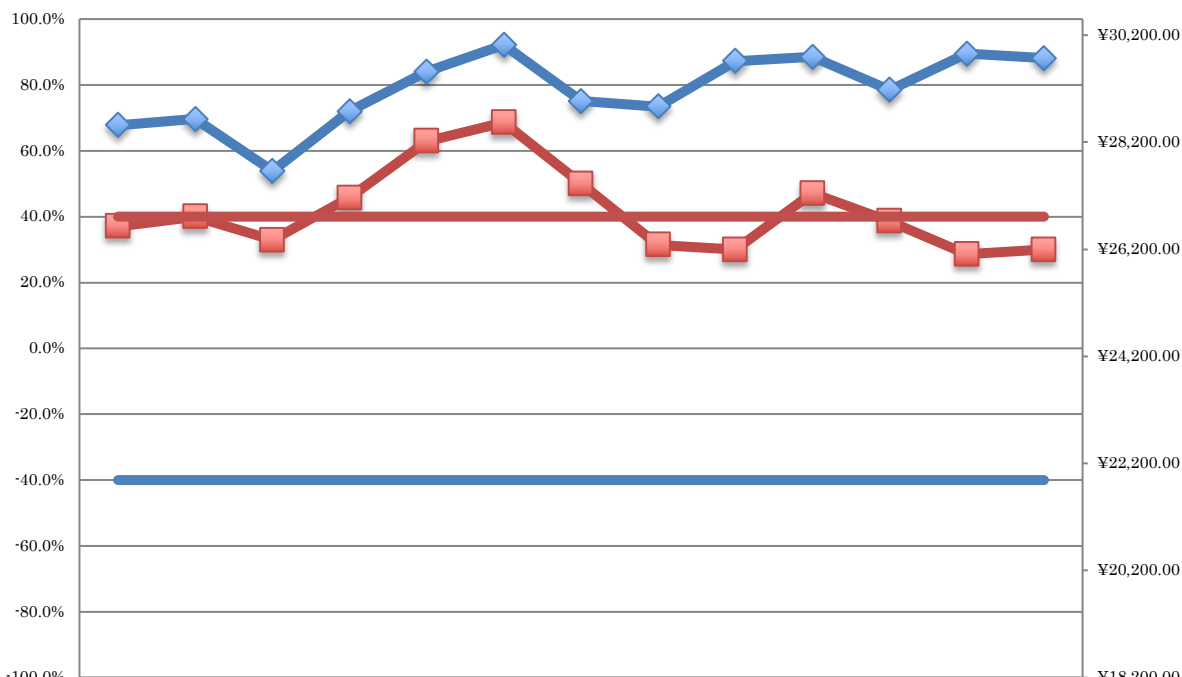


	3月26日週	4月2日週	4月9日週	4月16日週
上値上	¥132.41	¥131.35	¥131.17	¥132.44
上値下	¥131.11	¥130.05	¥129.88	¥131.13
下値上	¥129.52	¥128.54	¥128.36	¥129.53
下値下	¥128.22	¥127.25	¥127.07	¥128.23
ユーロ円	¥129.33	¥130.22	¥130.44	
高値	¥130.01	¥130.48	¥130.86	
安値	¥128.38	¥129.09	¥129.30	

■■■ レーティング変更 ■■■

同指標は日経平均に多少先行しますが一致指標。同指標は、21年1月22日週+40.0%→1月29日週+32.9%→2月5日週+45.7%→2月12日週+62.9%→2月19日週+68.6%→2月26日週+50.0%→3月5日週+31.4%→3月12日週+30.0%→3月19日週+47.1%→3月26日週+38.6%→4月2日週+28.6%→4月9日週+30.0%と35週連続プラス圏継続しています。以前から、『いずれ+40%超の上限ゾーンを継続して突破する近未来が待っています。』と指摘してきましたが、「上限ゾーン」を境に行ったり来たりするのは典型的な天井圏形成のパターンです。それを繰り返しながら相場は「2番天井」か、「トリプルトップ」のような天井圏形成のかたちになる可能性が強まったかたちです。

日経平均とT2レーティング比率



	1月15日 週	1月22日 週	1月29日 週	2月5日 週	2月12日 週	2月19日 週	2月26日 週	3月5日 週	3月12日 週	3月19日 週	3月26日 週	4月2日 週	4月9日 週
銘柄比率	37.1%	40.0%	32.9%	45.7%	62.9%	68.6%	50.0%	31.4%	30.0%	47.1%	38.6%	28.6%	30.0%
上限	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%
下限	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%
日経平均	¥28,519.1	¥28,631.4	¥27,663.3	¥28,779.1	¥29,520.0	¥30,017.9	¥28,966.0	¥28,864.3	¥29,717.8	¥29,792.0	¥29,176.7	¥29,854.0	¥29,768.0

□発行元:塚澤.com 運営事務局

□ご意見・ご感想:info@tsukazawa.com

※免責事項※

「塚澤.com 今週の T2経済レポート」は、

株式会社ライブグラフィー(以下、当社)が提供するレポートです。

これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いかねます。

提供する全ての情報について、当社の許可なく転用・販売することを禁じます。